

令和2年度 西砂学習館運営協議会第7回（令和2年12月）会議録概要

日 時：令和2年12月22日（火）午後6時～8時00分

出 席：大橋 加藤 広瀬 進藤 森 増田 小笠原 長谷川 岩元

事務局：石川 俣本

欠 席：小林

1. 開会のあいさつ

大橋：4月からコロナ禍で講座を企画し、委員には色々ところで協力して頂き無事に終了する事が出来た。11月28日（土）「地域再発見」は沢山の人達に参加して頂いた。天候にも恵まれ怪我や事故もなく、盛況の内に終えた事が良かったと思い感謝している。

講座によってはコロナの影響で定員を割ってしまった講座もあった。講座の受講者の数と内容のことで色々話が来て、講座を立ち上げた後のことも考える良い機会であった。実際の話の中でその講座が地域住民にとって大切な内容であったならば、活かす方向で進めていくことも必要なことと思う。楽しむ体験等は個人に返ることなので、他に派生は出来ないけれども今回の靴に関する講座は啓発していく内容として充分意義のあるものと思った。また学習館の在り方として啓発の部分でも一役買うことが出来ると考えさせられる一講座だったと思う。

懸案であった「西一元気通信」や夜間塾のまとめの取り扱いについては今日の話の中で審議をして頂きたい。あと一週間あまりで令和2年が終わる。新しい年を迎えて皆で元気よく頑張っていきたいと思う。

石川：11月26日に立川市地域学校協働本部連絡会が開催された。西砂川地区からは1名のみの参加。その時の会議録があるが、学校長への報告がまだのため「取扱注意」と記載の通り外部には公開しないで欲しいとのこと。

次に11月20日の西砂夜間塾のダイジェスト版を大橋会長に作って頂いた。次回からの夜間塾のチラシについて、今までは児童館の地図を付けていたが、前回のまとめを記載して、学校には壁新聞として掲示して頂くことを考えている。

会長が作成した「西一元気通信・西砂学習館だより」について。小林委員にタイトルを書いて頂いた。前回話のあったキャラクターは大橋会長にカラー版と白黒版の両方を作成して頂いた。

2. 令和2年度地域活性化講座について

(1) 「にしすな夜間塾」〈第4弾〉「靴の履き方&選び方」について

大橋：11月20日（金）に参加者2名、委員7名の事務局2名で実施。次回第5弾は今までのチラシ裏面は児童館の案内地図を記載していたが、次回から前回の夜間塾のダイ

ジェスト版を印刷してはと思う。前回の話の中で夜間塾を学校にお伝え出来る方法があると分かった。私が壁新聞の形でまとめるにあたり、ダイジェスト版を作ってみた。これを模造紙大の大きさにしたものを学校や近隣の保育園に配布して掲示して貰える様にしたい。読めば読むほどとても大切なことと改めて感じた。靴が原因と思われるケガや痛みがあるが、年長くらいの子どもに内反小趾や外反母趾が起きていることが一番ショックであった。合わない靴を履き続けたことが原因と考えられる。選んだ方が良い靴はひもとベルトが付いている靴が一番良いとのこと。履き方はつま先の方に足を付けるのではなく、かかとの方に足をフィットさせて甲の部分は紐を結ぶ。

小笠原：染谷先生に確認メールをした。齟齬がないので進めて大丈夫と連絡を頂いた。

大橋：染谷先生にダイジェストを作った後に事前に確認して貰おうと考えている。この位なら保健室のわきに貼ってあっても見て貰えると思う。出所や表題を上に記載した。学校や保育園に情報提供をしたいと思う。

小笠原：染谷先生自身が小さいお子さんを持つお母さんに伝えたい思いが強い方なので問題ないと思う。

(2) 「にしすな夜間塾」〈第5弾〉について

小笠原：去年は2月の開催だったが、今年度は松中小が2月13日に土曜授業がある。教育課程説明会もここでやる予定なので前日は避けた方が良いと感じる。2月5日は私用で不在のため避けて頂けたらと思う。

石川：2月5日は風間杜夫落語独演会を予定している。12日も連休のはざままで避けた方が良いと思う。19日または26日のどちらかではどうか。

小笠原：両日とも空いているが26日の場合翌27日は学童の入所説明会になっているので、学童はバタバタしている。

大橋：日程は19日で、食事なしの講座なので19時からにしたい。講座内容の希望やアイデアはあるか。俣本さんが前に話したスマホの撮り方についてはどうか。

俣本：前は「パパはカメラマン」という講座タイトルでデジカメの使い方を学んだ。

森：お父さんが出来るだけ参加する形が良い。

広瀬：夜間塾は児童館の協力がありとても良いと思うが、受講者数はある程度確保しないといけないと思うし、責任としてもある。参加者が少なくても内容が良ければという考え方もあるが、次回をしっかりとした内容にしないと前回も前々回も参加者が少なかったの、いけないと思う。前回も小笠原委員や石川係長は努力してくれたが参加者が集まらなかったことに対し他の委員も努力していかないといけないし大事なことと思う。最初から人数が少なくても良いという考え方は良くない。

大橋：私もはじめから参加者が少なくても良いとは考えていない。沢山参加者が来て欲しいが結果的に少なかった。受講した時にそれだけで終わらせてしまえば講座のシリー

ズはなくなっていく。この講座のシリーズは色々な形で広がっていけば良いと思った。税金で賄っている一つの講座なので、受講者が半数以下の場合には延期や取り止めの扱いと思った。実際に講座を立ち上げていく時には参加者が集まってくれることを前提に考えていきたい。次回 アイディアは宿題とさせて頂く。

加藤：今の意見通りと思うが、合わせて食事が出来ないとの事で 19 時開始としているし、始めたころは今より人数が集まっていたのは食事が出来たこともあると思う。時間は子ども達も含めると遅い感じがする。集まりが悪いので開始時間も検討してみた方が良さし、時間的な面と食事の面が影響していると思う。

大橋：早い時間に設定してしまうと父親が参加出来なくなってしまい、父親の参加を切ってしまう形になる。食事があることは大きかった。

小笠原：私も同じようなことを考えていて開始時間が遅いからこそ母親の負担を減らす意味で食事を提供していて、両方の意味があった。コロナの間だけ食事提供が出来ない時は「夜間」の枠にこだわり過ぎない方が良いと思う。尚且つ子どもの居場所作りとなった時には小学生の母親が来てくれる意味では、日曜日の午前中もやぶさかではないと思う。

大橋：原因を追求することは大切なこと。次に企画するときには時間帯や食事をいかにしていくか。意義があっても親御さんからしたら内容が、魅力のあるものとして捉えられなかったかもしれない部分もあり何とも言えない。

増田：過去の夜間塾のアンケート結果をみても食事の支度がなくて安心して参加出来たと意見があったので、一度過去の分を見直してみれば同様の結論に行き着くと思う。

大橋：2 回講座があるとすれば 1 回は椅子に座り勉強をし、もう 1 回は毎日の生活の中で息が付けるような講座にすることも必要かもしれない。

加藤：元々の狙いは仕事をしているお父さん、母さんで昼間はいないから子どもと一緒に参加することであった。コロナで食事が出来なくなった。方法として曜日や時間を変えてみたり、過去のアンケートを振り返ってみると良い。少なくとも食事が出た過去の 1 回目、回目は今回より参加者が多かった。

大橋：出来れば土曜日、曜日は家庭で過ごして貰いたい。そうなるから金曜日の夜の形でスタートした。コロナのため厳しい。長くは保留出来ないが時間を取って考えたい。

広瀬：どのような内容かで講座を行うかは小学生の親も中学生の親も受験があるので、親御さん向けの受験知識を得る講座が良いと思う。受験のことを以前に講座で行おうとしたが、子ども達は圧倒的に塾の先生を信用している。私が講座を企画しようとしたが「参加者が少ない」と言われて止めた。塾に通わせている親御さんは学校の先生以上に塾の先生を信用していることがあるので、塾に通っている子は良いが塾に行けない子たちは児童館・学習館で過ごせて相談できれば役に立つと思う。

大橋：時間をかけて論議しなくてははいけないし、とてもデリケートな問題だと思う。子ども家庭の貧困問題で二極化し高校も私立から公立にシフトしていて、社会と受験が大き

く関係している。広瀬委員が言おうとしていることはよく分かるが、講座を行った時にどのような人が参加するのだろうと疑問に感じてしまう。エリアの問題もある。

岩元：特に中学3年生は必死になって勉強をしている。3年生は3回位3者面談があり、今は子に合わせた支援先や選択肢が沢山ある。情報を伝えることを個別に行っている。学校の先生も頑張ってくれているので、保護者も信頼している。塾に行かなくても子に依じて支援を行ってくれている。同様なものを別に地域で行うと親御さんたちが混乱してしまう感じがする。

大橋：塾の先生を呼んでの立ち位置みたいなものは分からないが、講座を行った時に受験に対して支援を行っている立場で講座を組み立てているのか、今の受験体制を知って貰う為の部分かを問われる内容と思う。

岩元：立川市は小学校5年以上の学生に一人一台のタブレットの配布が始まった。自宅に持ち帰りが可能。

大橋：地域で塾に行けない子ども達の為に地域で教える場が上砂の辺りにもある。

岩元：松中小は止めた。

大橋：非常に二極化してきている。家庭の貧困を新聞等で見えていくと見た目は全然分からない。バイトをしているお金が授業料の為に合ったりしている。昔のバイトは自分が遊ぶためのものであったが、そうではなくて授業料になってしまっている。実際には分からない。何人かに1人が貧困を抱えている子ども達がいる。貧困になった時の軸になる立ち位置の講座を行いたい。

広瀬：余裕のある子は塾に行けるが、貧困の子は塾に行けずに親が忙しくて先生にも相談が出来ていない。親として受験に対して考えられていない現実がある。

大橋：5月に進藤委員の講座に参加。立川にも普通の公立や私立以外に沢山の定時制・単位制やフリースクールの高校がある。

岩元：学校の先生方も大橋会長が言われた情報を持っている。

大橋：不登校の子ども達が増えているから、学校にいる子たちが必ずしもとの訳ではない。不登校の子ども達に通える学校を紹介して欲しい。私達が育ってきた頃よりは選択肢が多岐に渡っている。

岩元：不登校の子ども達に通える学校についてはかえって先生の方が情報はない。誰かに講師を頼むにしてもとても難しい。

長谷川：中学校の掲示板には色々な高校の情報が掲示してある。でも余りにも高校の方針が多彩過ぎて聞いたことのない、見たことのない企業内学校もあった。フリースクールもあり、とても数が多くなっている。授業参観に行ったときに授業参観よりも壁の掲示に興味を持ってしまった。うちの子が中学校を卒業して10年も経っていないのにガラリと変わってしまった。年々変わっていくので学校の先生の情報が一番確かなのかと思った。7中の先生はとても熱心で心配事があった時に電話するとすぐに聞いてくれる先生が多い。

岩元：その点で西砂は恵まれた地域だと思う。すごく一生懸命に先生はやって下さる。

大橋：対象は中学生くらいの子を持つ親御さんか。

岩元：学校にお任せしていれば安心だし、学校以外で行っても仕方ないと思う。

長谷川：学校の先生が1番だし、中学校には高校から直接話が降りてくる。学校の先生に質問を出してそこで指導を受けるのが生徒にとって一番良いと思う。子どもと親で考えて貰い先生が情報と考え方をしてくれる。そういう意味でも学校が1番早く確かな情報を出してくれる。

広瀬：私は中学校にあまり関わっていないので分からないが、最近は進路指導を先生方が一生懸命行ってくれて、大変な苦勞をしている子たちでも気楽に相談出来る体制になっていけば、それで良いのではないかと思う。委員の私たちが行く必要もない。

岩元：子ども達の進路は多岐に渡るが学校がどんな子どもでも対応できる体制で、一生懸命取り組んでいる。それ以上に地域として情報を上げられるとは思わない気がする。

加藤：岩元委員が言われた話の中でタブレットが子ども達に配布されたが、子どもが家に持ち帰り、親はどうするのかなと思う。wi-fiが家にあり、接続はどのようにすれば良いのだろうと思うし、家にいて使えない場合、困ってしまう親はいるのではと思った。

大橋：西砂の学校運営協議会に出てその時に4年生以上は配布されたが、鈴木さんがタブレットを渡された後のことを心配していた。wi-fiの問題で分からない親は学校から用紙を渡されただけでは分からないが、困ったとの連絡があっても1件だった。

小笠原：ちょうど息子がタブレットを持ち帰ってきたが、学校で事前に立川市を通じてwi-fi環境の調査が何回もあった。ない家には学校からWi-fi環境の貸与をして貰えた。子ども達が1から環境を含めて立ち上げから何から授業の中で行うので親は手を出さないとと言われてホッとした。私は全く分かっていなかったので、Wi-fi環境が整っている前提を確認できた上でタブレットを配布している。持ち帰ってきた初日は充電をただけだった。翌日はパスワードやアカウントの入力を1から行い色々な情報が入って来た。あまり良くないサイトに繋がってしまうことも学校は想定済みであった。そうなった時の対処法を都度子ども達は学んでいくと保護者会の時に話をしていて文書でも通知が来た。その話を聞いて親としては安心した。親が行うことが多いと思っていたが真逆だった。

加藤：しっかりと学校がフォローしてくれているのですね。

長谷川：こうやってタブレットを貸与してくれて学校で1から行ってくれたので、子ども達は出来ない子もいるが良かったと感じた。

石川：学校で教えてくれるのは担任の先生または専門の方か。

大橋：詳しい先生を中心として研修会を開いた。西砂の時は堪能な先生に他の先生にも教えて貰った。専門家が来て行っているわけではない。

石川：担任の先生の負担はとても大きいですね。

大橋：私の時にはパソコン教室があったが結局ローマ字入力出来ないの、森委員のよう

に地域に住む人で堪能な人に来て貰い、「世界と繋げよう隊」を作ったが、個別に見て貰わないと能力差があって大変だなと思う。プログラミング教育も含めて学校が行うことは沢山ある。英語教育もあり先生たちは英語の実技は入っていなかったが、子ども達に教えなくてはいけないことが山のように増えてきた。詳しい人材がお手伝いに行ければと思う。仕事前の朝 1 時間に地域にお手伝いできる人材は沢山いると思う。地域に要望をして頂いても私は良いのかなと思う。

加藤：大橋会長が前にスマホの使い方の講座をしてくれたがタブレットでゲームも使っているのかなと思う。

大橋：タブレットはきちんと制約で使える時間が決まっている。スマホの方が個人的に持って寝床まで持って行って使えるから問題かと思う。次回までに講座内容を考えていきたい。

(3) 「地元を学ぼう！西砂の野仏を訪ねて」について

石川：ご参加頂いた委員の皆様本当にありがとうございました。参加者は 23 名であった。当日のキャンセルは 4 名だったが当日の参加もいて 2 名減の形になった。講師の豊泉先生から謝礼は無くても沢山講座を行い、出来れば若い人たちに立川の大事な歴史を伝えていきたいと話しを頂いた。西砂小、松中小の子どもがいる家庭は若い人がいるのではないかと先行予約で一般受付より一週間早く受付を開始したが、応募者は全くいなかった。一般受付開始では直ぐに満員になった。特に立川だけではなく東村山等の遠方からも立川の情報誌「きりり立川」等を見て参加してくれる人がとても多かった様感じた。どの家庭にも馬頭観音があり、立川では昔は女性は農閑期に旗を織り、男性は運送業を行い、馬は大事なものだった歴史を教えてくれて非常にためになるものであった。まだ、他にもお話がある様なので、豊泉先生にまた講座をお願いしたいと思う位とても良い講座だった。

加藤：今までに豊泉喜一先生の講座を 2 回ほど受けた。石川係長から話があったが地元西砂一番町地区の子ども連れの方に来て頂いたら地元の話が発展していく。今まで畑に家族で来て、野菜を取った時に喜んでもらった講座が幾つかあった。そんな風な工夫が出来る講座を開けたらと思う。

森：先ずは豊泉先生の熱い思いに本当に感動した。もっと私達委員は先生の知識を活かせる形を見出していかなくてはいけないと感じた。耳につけたイヤホンはとても良かった。イヤホンがないと後ろの方が分からなくなってしまう。若い人が参加しない理由を考えたが、若い人は歴史に興味を持ってないことが一番と思うが、西砂辺りで歩くとなると野菜の収穫やミニ遠足のようなことが 1 つ 2 つあると子ども連れが遊びがてら来てくれるかもしれない。話だけでも私は大満足だが子ども連れが聞いた時にはどうなのかなと感じた。

大橋：体験とプラスアルファでくっつけたりしたら良い。私は初めてなので全てが聞き取れ

なかった。沢山のことを話してくれたが歩きながらで聞き取れなかった。1回座学でしっかり聞いて検証の為に歩くことも良いのではないかと思った。若い人達は歴史だけだと興味を持ってないみたいなので体験や食と抱き合わせの講座にすることも1つの方法と思う。豊泉先生の知識を委員が聞いて毎回は語れないかもしれないが心に留めておきたい部分がある。年齢もあるので毎年色々な角度から豊泉先生の知識を沢山の人の人に残していきたい。

加藤：豊泉先生は知識がたくさんあり、同じコースを歩いてもまた新しい話をしてくれる。座学を1回行って次に廻ってみることがあっても良い。

大橋：豊泉先生は民族の会にも所属されているので、砂川の残る民族の話と合わせたらいい。

岩元：昭和記念公園の中のこもれびの里を実施されているのでそこに親子遠足を学習館で主催して、畑で耕していた話を聞いてしばらくしてからこの地域のことを話せば良い。関心を持つきっかけとして昭和記念公園の施設を活用することも良い。

加藤：学校にチラシを配ったが、近所にチラシを配り子ども連れを誘ってみることをもう少し行ったら良いなと思った。

大橋：数が埋まったと聞いていたけど若い人はいなかった。子ども達と来てくれる親が何人いるのかなという部分で期待は裏切られてしまった。

広瀬：外から来た人達は野仏まではまだ興味はないと思う。地元で育った若い人達にもっと知って貰いたい。

大橋：繭玉とうどん作りでは子ども連が来てくれている。あの層が来てくれたらと思った。こもれびの里の遠足みたいに行って話を聞くと、違った視点で子ども達も参加してくれる。イメージしているのは豊泉先生が民族の会なので十五夜の暗闇祭りの民話をイベントとくっつけると体験型の昔を知る講座になると思う。講座の組み方で子ども達も参加してくれるようなものを考えていけると親御さんも一緒に来てくれる。

広瀬：この辺りにとどまらないで砂川全体を2回に分けて講座を行ったら良い。そうすれば新しく来た人たちも興味あると思う。

大橋：講座として発展しそうなのでまたその時に話をしたい。出来るだけ新しい人と子ども達、若い人達に参加して貰える様に講座を組み立てていこうと思う。

岩元：うどん作りや繭玉の時に地域の奥さんたちがおしゃべりをしながら行っている。あの時代の蚕の話も伝承する取組が出来たら良い。

大橋：文化会の人達とのコラボ企画を学習館や会館で企画をして、子ども達に沢山参加して貰える様な講座を作ったら良い。学供施設との関連もあるので数が大きくなったら、西砂会館を会場として砂川のうどん作りと昔の話をしたら良い。初笑いのうどんではなくて夏休みの講座として企画でも良い。

(4)「西砂川での災害を考える」(第5弾) コロナ禍での避難所の運営について

石川：実施は1月17(日)の午前10時~正午の予定。現在7名の申し込みがあるが、コ

コロナ感染拡大防止のため中止の可能性がある。1月10日立川市消防の出初式が予定されている。人が集まり密になる場合もあるので防災課が今週中に中止の可否を決める。出初式が中止の場合は、「西砂川での災害を考える」〈第5弾〉コロナ禍での避難所の運営についても同様に中止になる場合もある。集合時間は9時30分としたい。

大橋：1月10日立川市消防の出初式が中止の場合、講師の防災課長が参加出来ないの〈第5弾〉も必然的に中止になる。出席不可の委員は進藤委員・小笠原委員。

石川：具体的な内容は大橋会長にお任せしているが、明後日防災課長の所に下打合わせに行く予定。それに基づいて防災課長が資料を作ってくれる。青木防災課長の話ではあくまでも防災の話になるとの事で、課をまたいだ内容について話すことは難しいとの旨。まずは立川市の防災計画を少し説明してから西砂に係る所の話に入って来てくれる予定の段取り。

大橋：24日に打合せがある。今の所は中止ではない。内容は立川市の防災計画と西砂地区の部分に合わせた話をして頂ける。

加藤：次回は防災担当の方にも参加して貰いたい。

岩元：この日の午後予定されていた5団体主催の賀詞交歓会は中止となった。自治会の防災担当の方には講座に参加してもらいたい。

3. 協議、報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認（議事録）

大橋：何かあれば事務局へ。

(2) 地域学校コーディネーターとの連携について（協議）

石川：委員に見て頂いた日程調整の紙を、地域学校コーディネーターの皆さんに2回程お配りした。宮崎さんは自治会の会長をされていて忙しいのと、実際今年は一度も西砂小に呼ばれていないと話され、集まったところで何も話をする事がないので、不参加と言われた。西砂小の詳しい事は鈴木さんが分かるので、鈴木さんが西砂小代表として出ると言われた。日程は26日または28日のどちらかの日で決めたい。

大橋：28日開催の希望があるので、1月28日（木）に地域学校コーディネーターとの会議を進めたい。今後は定例の月1回と追加の会になる。無理してしまうと負担過多になる。議事録は学校にも都度知らせていきたい。無理をして続かなくなってしまうといけないので、必ず参加とならない形で了承して貰えたらと思う。

石川：11月26日に立川市地域学校協働本部連絡会に参加した。西砂の関係者の方は欠席者が多く、7中の渡辺道代さんのみが出席。議題になったのが、学校が困っている職業体験先を開拓してくれた事や、廃部になっていたバレーボール部の立ち上げ活動等、特技を活かして小中学校で行ってくれているとの話が会議の中であったが、学校よっての温度差を感じられた。校長先生によるが歓迎されていないと感じた学校も

あったり、今までやり易かったのが、校長先生が変わると中身がガラリと変わる難しさがあることも感じられた。

大橋：子ども会、青少健、自治連、協議会の各団体にコーディネーターの活動が浸透していき、理解がされていない。コーディネーターの方自身が悩んでいる部分もあるかもしれない。岩元委員から七中が学習支援で地域の人たちに入ってほしいとの話があった中で、具体的な話が出ているところもあるしそうでないところもある。職業体験の受入場所でも地域人材の情報網があると受入れし易くなるし、学校教育に活かしていける。

石川：地域学校コーディネーターの方は学校に通っている子ども達への支援と皆さん思うが、先生を支援し、先生のメンタルが崩れないようにコーディネーターが他言せず先生悩みを聞いてくれ、先生を助けに行っているコーディネーターも中にはいた。

大橋：子ども達だけではなくコーディネーターが橋渡しをして色々な形で支援をしている。具体的な話をしている中で見えてくる部分もある。

加藤：連絡会は毎回行って何回目なのか。

大橋：年1回行っている。去年は無かった。

加藤：資料を見れば分かると思うので、地域学校コーディネーターが今までどんな形で行ってきたかをこれからコーディネーターとの会合があるので知ることができたら良い。

(3) 「西一元気通信～西砂学習館便り～」発行に向けて（協議）

石川：ロゴは小林委員が書道で書き、森委員がスキャナーで取って綺麗に修正してくれた。

大橋会長がマスコットキャラクターを作ってくれた。男の子と女の子のペアでキャラクターが2つあると会話形式で伝え易いと思うし色々な所でメリットがある。大橋会長、本当にありがとうございました。試作の段階だが大橋会長が「西一元気通信～西砂学習館便り～」の自己紹介文も作成。委員には見て頂いた上でご意見を頂けたらと思う。

大橋：前回はお茶の葉のイラストがあったが、お茶の葉や花は1回使うのは良いが季節があるので、キャラクターの方が良いと思い考えてみた。お茶のキャラクターはとて難しく胸の前にあるのはお茶の葉の家紋。「ちやの木くん」と「ちやの花ちゃん」にしてみたと思う。タイトル名の経緯、この通信で伝えたい内容と学習館の今後をどうしたいかについての3点を初回の通信で伝えないといけないと思った。それ以外に西砂学習館の役割があり、委員の皆さんが次世代を担う子ども達との関わりで住みよい街づくりに繋げていく役割がある事を伝えたい。

広瀬：お茶の事ですが地元でお茶を作っている家は数多くはないと思う。西砂でお茶とのイメージは沢山の人は持たないと思う。

大橋：前は西砂地区でお茶と関わりが深いとの話からキャラクターの作成に至った。

広瀬：作ってくれたことは良いと思うが強く推していくことはしなくて良いし、キャラクタ

一はこれで良いと思う。お茶畑はあるにはあるが昔ほど多くはない。

大橋：文言でこのエリアで盛んに栽培されていることをどの様に変更したら良いか。

森：「されていた」と過去形にしたら良いと思う。キャラクターの設定は男の子と女の子か。

大橋：左は女の子、右が男の子。現在西砂学習館だけの便りになっているが、市内6学習館がきちんと中身のある便りを作っていくことが理想。生涯審の大筋をどこかで知らせないといけない。学習館活動についてのお便りはとても意味がある。

広瀬：他の市は公民館便りがしっかりある。立川市だけ公民館便りが無い。特に地運協の通信が全くない。西砂は最初で素晴らしいと思う。

増田：追随する学習館があるので今頑張れば良いと思う。

大橋：西砂では先行して進める。地運協の活動、地域のことをしっかり考えて講座を行っているので、そのことをどうしても伝えていきたい。

岩元：2月に発行の場合、意見はいつまでに何処にどうすれば良いか。

大橋：学習館宛のメールで。たたき台がないと先には進まないと思いたたたき台を作った。

(4) フリースペースについて (報告)

小笠原：目途が立っていないのが現状。フリースペースで長くボランティアをしてくれていた高校生の進路が希望していた鉄道系の短大に決まった。

(5) 報告及び連絡事項

加藤：コロナが酷くなってきている。市民推進委員会も講座を10月～12月に沢山行ったが申込者が多く且つ意外と欠席者も少ない。レクチャーコンサートや講演会等、定員が多い講座が続く場所探しが大変になっている。沢山参加者が来てくれ心配しながら、色々な対策を行ってきた。講座が終わってから10日程経つので、心配しながらも大丈夫なのだと思う。早く収束することを願っている。

野仏の講座で使ったマイクセットは3年前に購入した。野外講座の時にぜひ有効に使って頂けたらと思う。

広瀬：地域包括で「みんなの介護教室」が西砂学習館であった。シリーズで行っていてテーマが具体的で今回は「最新の福祉用具の活用」だった。新しい車や道具、ベッド等良いものがたくさんあった。次回は2月に「耳で聞こえないメカニズム」について行う予定。包括が主催するものについて地運協でも共催や協力したら良いのではないかと。特に西砂会館や西砂学習館を使う講座については少しでも協力出来たら良い。

「日本語教室」も地運協で協力出来たら良い。地運協は色々なことに協力する気持ちはあるから具体的に協力出来たら良い。

大橋：この会館を使う講座に対して出来る限り協力出来たら良い。

進藤：北住宅の空きスペースが使えるようになった。今月中に鍵を1本預かることになりそうなので、当面はお手伝いをさせて頂く予定。場所を見たい方がいれば対応可能。小

人数やお一人でも構わない。

西砂地区で健康マージャンのグループを新しく作りたいとの方がいる。2月号のまちネットにも載る。日程は最初に集まったメンバーで決めたいとの事で、場所は西砂会館または西砂学習館になると思う。

広瀬：学習館にマージャン卓はあるのか。

石川：マージャン卓はないが、既に健康マージャンの会があり、重いものはこちらでお預かりしている。

小笠原：児童館では併設している学童保育所の新年度募集の第1次締切が終わった。松中学童保育所は1年間70名定員を割ることがなく常にいっぱいな状況。来年度は新1年生が少ないことがありどうなるかと思った。コロナ禍で入所説明会も時間を区切って行わなくては行けないし、保護者会も出来ない。親御さんと職員の関係もとても希薄な1年間を過ごしてしまった。子ども達との関係も減りつつあることがとても痛く歪みが出てしまっている。12月は子ども達が楽しみにしているクリスマスイベントの2つ目が終わった。1つが小学校低学年～乳幼児向けのファミリーコンサート、もう1つは例年パーティー形式で行っていたものを今年はゲーム形式や工作で60名定員に絞り先週の日曜日に行った。他の児童館では中止の案も検討されたが、開館している以上出来るだけ子ども達の楽しみを奪うことを避けたいとの事で安全に気を付けながら各館進行している。立川市のホームページにも載ったが子ども達の冬休みの居場所作りとして通常会館は28日まで行う。今ランチタイムを禁止している。学童にいる子は食べられるが、学童に入れない子は食べられない。就労をしているお父さん、お母さんのご家庭の平日の昼ごはんの場所としてランドセル来館に登録しているお子さんのみランチタイムを開放することで冬休みに僅かながら居場所を確保することが出来た。本来ならランチタイムの全面開放に動く予定だったが、あまりにもコロナの状況がひどくなり本当に登録している子ども達のみが就労家庭に特化した事業なので良かったのではと思った。1月早々に書道教室と新しく岩元委員に協力頂いて囲碁教室を立ち上げることになった。1月は昔遊び月間になり、大々的に行うことは出来ないが、子ども達の楽しみを1つでも2つでも多く提供していけるように頑張っていきたい。

長谷川：1月17日に5団体の賀詞交歓会はコロナが拵がった事があり中止となった。他に青少健の活動予定はない。

岩元：文化会も1月に予定されていた「親子初笑いうどん作り大会」が中止となった。文化会も協賛している繭玉作りは西砂会館運営協議会の役員の方達だけで作る事になった。今までの様に子ども達に声を掛ける事は出来ない状況。

保護司会で3月7日に前回中止とした「あの日のオルガン」を2回に分けてアイムホールで実施する予定。座席は半数しか入れないので入場券の配布が限られた方々しかお渡しできない状況。

大橋：繭玉は役員のみ参加か。

岩元：今回お子さんに声掛けはしない。

石川：繭玉に地運協の協力は必要あるか。

岩元：今回は協力なしでお願いしたい。文化会は共催だが西砂会館の運協から自分達で大丈夫と言われた。

森：西砂パソコン倶楽部は12月8日に講座を行った。12月は毎年年賀状を作っていたが、今年は頑張り予め作って頂いたのを当日に手直しをしていった。何年か前に団体企画型講座でマウスのフリーハンドで絵を描く絵手紙講座をした。ちゃんと活用して、手書きの様な味のある物を書いた方もいた。60代、70代と割と年齢層が高いメンバーが参加してくれているので、このまま学習館の教室を借りて続けていけるか心配している。

増田：たちかわ・財政を考える会では、加藤監事のご尽力のもと「財政学習会」を予定通りずっと続けている。12月26日にはAIM学習室で、立川市第4次長期総合計画の進捗状況に関する「出前講座」を浅見企画政策課長に行っていただき、参加者の活発な意見交換会を予定している。職員の方にも是非沢山参加して頂きたい。

侯本：12月13日に西砂学習館でクリスマスコンサートを行った。申込が多く且つキャンセル待ちの方も多かった。当日はキャンセルも少なく良かった。感想の中で「コロナ禍で心折れそうでしたが元気が出ました」と書いてくれた方がいて実施できて良かったなど感じた。

石川：少し先の話になるが来年度は何とか西砂学習館まつりを行いたいと思っている。昨年参加表明してくれた団体にこれから通知を届けていく。今までは学習館がメインで動いてきたがこれからは実行委員会形式で進める。実行委員長は和太鼓の山田さん、副実行委員長は南京玉すだれの篠原さんとフォトサークルの橋本さんのお二人。篠原さんからはまつりがなくなっても発表会を自分達でしたいと言って頂いた。ずっと家に籠っていると気持ちが滅入ってしまうので、楽しく出来ることがあると嬉しいと言って頂いた。コロナに関しては先が読めない所もあるので実行委員長と副実行委員長の4人で話をした。コロナが拡がり学習館が使用中止になれば仕方ないが、自粛なら去年行わなかったので2年続けて行わないと明かりが消えてしまうので、無観客で発表会を行いビデオ撮りし関係する方にDVDを渡したいと思う。作品展は出来れば行い、人数制限をして鑑賞できるようにしたい。それも難しい場合はメインの作品だけ持って来て貰い、写真を撮らせて頂き、ちょっとした冊子にしたいと考えている。日程は5月末の金曜日～日曜日で28日から30日。発表会は30日。2月10日が第1回目の実行委員会になる。例年は第1教室で行っていたが、今年は密を避ける意味合いで視聴覚室にて行う予定。

その他

次回 1月26日（火）18：00～